

【出展趣旨】

地域のものづくり企業だけでなく周辺のサービス産業との関わりや、その背景にある地域の歴史や魅力を発信することができる、地域一体型オープンファクトリーの取組について、万博会場内で出展・発表を行った。

【日時】 令和7年9月5日（金） 10：00～21：00

【会場】 大阪・関西万博フューチャーライフヴィレッジ TEAM EXPO パビリオン（大阪府大阪市此花区）

【来場者数】 展示ブースのべ1227人／ステージ発表約100人

【出展団体】

①来て見てみい、とくしま。

～徳島で生まれ育まれたものづくりの現場を開放することで、徳島を盛り上げる！～【徳島県】

②CRASSO実行委員会～ファクトリーツーリズムで「ものづくりの聖地」を目指す！～【香川県】

③「A-CROSS～課題解決共創プロジェクト」共創プロジェクトチーム

学生×CRASSOによる「A-CROSS～課題解決共創プロジェクト～【香川県】



出展内容

- ステージ発表
- 展示
- フューチャーライフヴィレッジ
交流イベント
「ミライ×未来ソーダ」参加

フューチャーライフヴィレッジについて

様々な参加者が「未来の暮らし」、「未来への行動」をコンセプトとする多種多様な「問い」と「提案」を持ち寄ることで、参加者同士や来場者との対話が生まれ、未来社会はどんな姿かをみんなで考え、共に創り出していく共創（co-create）を実現する場。（参考：公式HP）

来て見てみい、とくしま。 ～徳島で生まれ育まれたものづくりの現場を開放することで、徳島を盛り上げる！～

■ステージ発表

木工の一大産地 徳島の魅力を体感してほしい

徳島県は、県土の76%を森林が占めており古くから豊富な木材資源に恵まれ、木製建具は全国2位、仏壇は同3位の出荷高を誇る。

木製品の魅力を消費者に体感してもらうことを目的に、地元の木製品製造業者が集まりオープンファクトリーイベント「来て見てみい、とくしま。」の取組をスタートさせた。

「来て見てみい」とは、徳島の方言である阿波弁で、「一度、来て、見てください」もしくは、「来てごらん」といった意味を持つ。



長い歴史の中で育まれた高い技術力

特に木製品の製造技術に優れており、阿波国の藩祖、蜂須賀家正が、船大工や刀鍛冶を多数抱えて入国した15世紀ごろにさかのぼる。

刀鍛冶はやがて時代とともに鉄砲鍛冶に転身し、歴史の変遷で磨かれた船大工と鉄砲鍛冶の技術は、さまざまな形で現代に受け継がれている。

徳島県に古くから継承されてきた技術の中には、阿波木偶人形、農村舞台の襖からくり、カラクリ錠とも呼ばれる阿波錠など、カラクリが施されたものも多く、阿波鏡台や仏壇などの木製品にもカラクリの要素が盛り込まれている。

船大工発祥の木工技術も、明治以降は建具の他、小物、筆筒、下駄などの暮らしに役立つ木製品や家具装備品の製造に生かされてきた。



来て見てみい、とくしま。 ～徳島で生まれ育まれたものづくりの現場を開放することで、徳島を盛り上げる！～

木工に特化した工場見学ができるオープンファクトリー

オープンファクトリーイベント「来て見てみい、とくしま。」は、徳島市と隣接する2市町で10社が、木工に特化した工場見学を開催。世界的にも認められている高級家具の製造工場の見学は、とても貴重な機会。

イベント内容は、家具工場などの見学、トークイベント、地元作家の展示、ワークショップ等があり、ワークショップでは実際に職人に手伝ってもらいながら実際に工具を使って木製品を作ることができる。

2025年で3回目を迎え、来場者が大幅に増加し、内容も非常に充実した大きなイベントに成長しているので、ホームページ等で情報発信しているのも、ぜひ参加してほしい。



▲発表資料

■展示

木工品を藍染で仕上げた、徳島県の工芸コラボレーション作品。



CRASSO実行委員会 ～ファクトリーツーリズムで「ものづくりの聖地」を目指す！～

■ステージ発表

ファクトリーツーリズムで衰退する地域を再生

香川県の東に位置する東かがわ市（東讃地域）は、消滅可能性自治体であり、人口減少等の課題を抱え、衰退する地域をなんとかしたいという思いから、地域の事業者を中心にファクトリーツーリズムに取り組み始めた。

実は、東讃地域は手袋の全国シェアの9割を占める、「手袋のまち」であり、有名なスポーツ選手から海外の一流ブランドまで様々な手袋を作っている。地域には手袋を中心としたものづくり企業が多いため、これらの産業を観光化すべく、ファクトリーツーリズム「CRASSO」を企画運営している。



製造現場に行き、職人と交流することで得られる新たな発見

ファクトリーツーリズムのテーマを、「地域の光を観る旅」と題し、イベント期間中は、ものづくり企業が普段は一般公開していない工場を一齐に開き、工場見学やワークショップを通して職人と交流できるイベントを開催。

出展企業は、手袋製造会社のほかに、印刷会社、おしゃれなカバンや財布など革製品を製造する会社など多岐にわたる。

また、あまり知られていないが、道路標識を作る会社も香川県に所在し、制作現場を見学できる。このような新しい発見に出会えるのも大きな魅力で、これまでに5回開催しており、期間中に数千人を集めるイベントに成長した。



CRASSO実行委員会 ～ファクトリーツーリズムで「ものづくりの聖地」を目指す！～

「ものづくりの聖地」として瀬戸内地域を盛り上げたい

「CRASSO」は英語でものづくりを意味する「CRAFT」と、イタリア語でエースや一番を意味する「ASSO」を組み合わせた造語。「CRASSO」ではオープンファクトリーにとどまらない地域全体の活性化を目指している。これからも活動が続けていき、訪れた人に、自然や歴史・文化に触れて楽しんでいただくことで、地域のファンを増やしたい。

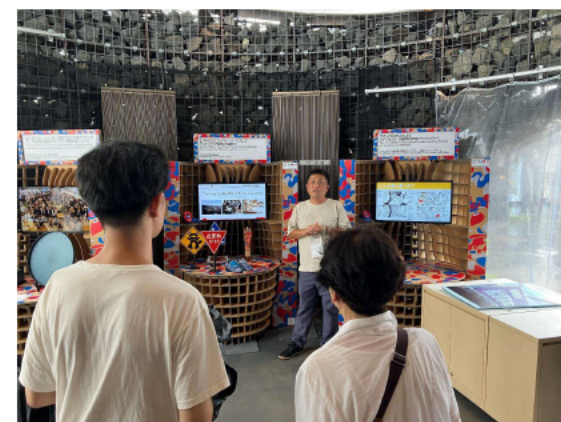
回数を重ねる度に「CRASSO」のエリアは拡大し続けている。東讃地域だけでなく香川県及び瀬戸内地域全体が「ものづくりの聖地」と呼ばれ、やがて、世界中から観光客が訪れる「人が輝くテーマパーク」のような地域にしていきたい。



▲発表資料

■展示

写真左／（右上）着物の帯をリメイクして作った手袋・（右下）香川の伝統工芸品「讃岐のり染め」で仕上げた生地で作成した靴・（左上）道路標識を製造する会社が特別に制作したミニ標識



A-CROSS～課題解決共創プロジェクト

共創プロジェクトチーム ～学生×CRASSOによる「A-CROSS～課題解決共創プロジェクト」～

■ステージ発表

学生と企業の共創により地域を再生！

A-CROSSとは、CRASSO参画企業と地元大学生が協力して地域課題の解決を目指す共創プロジェクト。学生の企画をもとに、CRASSOの魅力発信やオープンファクトリーの認知度向上につながるコンテンツを実施。

産業観光の視点はもちろん、「人材育成」や「教育」の視点も加え、多くの世代に「ものづくり」の価値を体感してもらえるよう取り組む。

学生の想像力×職人の技術力で、新たな価値を創造

昨年度は、学生3チームとCRASSO企業が共創し、コラボ商品制作プロジェクトを実施。課題・魅力の洗い出しからスタートし、地元商店街でのプレゼンや、「CRASSOバスツアー」でのものづくり現場の体験を経て、アイデアを具体化。そして、CRASSO実行委員会の場で協力企業を募集し、マッチング企業と対話を重ねながら、試作品の制作やブラッシュアップを行った。

皮折り紙「かわかみくん」や、CRASSO当日に来訪者と制作した「廃材モザイクアート」、(有)松原製本所とコラボした「デカ仕掛け絵本」
桧原工業(株)とコラボしたかわいい防災シューズ「ズックズー」等の各チームのアイデアを、最終報告会で発表。CRASSO企業からは学生ならではの発想力が高く評価され、前向きなフィードバックが得られた。



▲発表資料

A-CROSS～課題解決共創プロジェクト

共創プロジェクトチーム ～学生×CRASSOによる「A-CROSS～課題解決共創プロジェクト」～

小学生向け夏休みの自由研究ウィークを開催！

今年度は、夏休みの地元小学生を対象とした自由研究ウィークを企画・運営。自由研究を通じて、地元企業等の魅力を小学生に伝えることにチャレンジした。

1日目は、(有)槇塚鉄工所（キーホルダー作り）、(株)タナベ刺繍（刺繍ペンダント作り）、2日目は白鳥神社（竹矢作り）、江本手袋（株）（細マフラー作り）を実施。

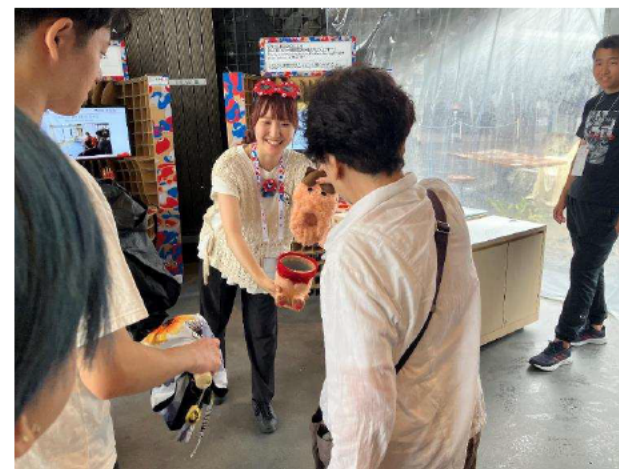
事前に企業と打ち合わせを重ね、体験要素・ストーリー性と、自由研究への活用を両立させた企画を考案し、参加した親子からも好評であった。



▲発表資料

■展示

写真左／見た目はかわいらしいぬいぐるみでありながら、災害時には、防災シューズに変身する「ズックズー」
写真中央／CRASSOに参画するものづくり企業の面白さを伝える、超巨大な「仕掛け絵本」



■四国経済産業局の発表

四国経済産業局では、中小企業支援、スタートアップ支援、脱炭素経営支援、省エネルギー普及支援、伝統的工芸品産業支援といった、さまざまな視点で四国地域の事業者支援を行っており、その一環としてオープンファクトリーに対する支援も行っている。オープンファクトリーとは、見る側が主体となる工場見学とは違い、見せる側が積極的に自身の活動を発信していくもので、参加したエンドユーザーとの関わりを通じて自社の魅力を再発見できることでインナーブランディングにもつながり、事業の向上が図られ次世代へも引き継がれていくという、持続可能な地域づくりの取組である。

四国地域には多様な資源があり、今後も複数の地域でオープンファクトリーを通じた活性化が期待されている。



【出展者等のコメント】

(来て見てみい、とくしま。)

- ・オープンファクトリーのことを全く知らない人たちが来場されるので、0からの説明が難しかったが、少しでも、来て見てみい、とくしま。の活動や徳島の木工について知ってもらえるきっかけになった。
- ・ステージ発表をきっかけに、他産地で木工のものづくりをされている方との交流につながった。

(CRASSO)

- ・交流会に一般参加者が多く驚いた！ただの交流会ではなく、「未来社会」について様々な人と一緒に考え想いを語り合う場になっていて新たな気づきがあった。
- ・これまで自分なりにやってきた事業（ミニ標識の制作）が、今回様々な人から意見を聞けて、自分だけの思い込みではないことが分かり今後の弾みになった。

(A-CROSS)

- ・ズックズーの需要や必要性について不安があったが、万博での試作品の評価が予想以上に良く、可愛いと褒められた。
- ・「学生らしい素敵なアイデアだね」「孫にプレゼントしたい」といった声をいただけた。
- ・商品の需要を実感できたこと、また万博という大きな舞台で発表できたことは素晴らしい経験となった。

(一般来場者)

- ・各社が行うオープンファクトリーについて、もっと知りたいと思った。
- ・四国は木工や手袋産業等も盛んであることを知り、以前までの四国のイメージといい意味でギャップを感じた。
- ・徳島県の木工産業の歴史を知れる過程が面白かった。
- ・学生たちの発表が個性的で面白かった。地元の若者も一緒になって地域のために取り組んでいるのは嬉しい。